

# 高等学校における学習に苦手さのある生徒の学力向上に向けた支援方法の開発

高知大学大学院総合人間自然科学研究科教育学専攻特別支援教育コース 寺田研究室  
高知県立高岡高等学校 教諭 嶋崎京都

## 1 はじめに

平成 19 年度に学校教育法の一部改正が行われ、特別支援教育は「障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う」ものとして規定され、各教育委員会もその支援策に関する冊子などを作成し推進を図ってきた。高知県においては校内委員会等の支援体制はほぼ全国平均で推移しているものの、やはり高等学校は小・中学校と比較するとまだまだ十分な支援体制であるとは言い難い。中央教育審議会特別支援教育部会「特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議高等学校ワーキング・グループ」の報告（2009）によれば、文部科学省が小・中学校の全国調査に準じた方法で実態調査を実施した中学校について、在籍する発達障害等困難のある生徒の一部の学校卒業後の進路状況（平成 21 年 3 月時点）を分析・推計した結果、「調査対象の中学校 3 年生全体のうち、発達障害等困難のあるとされた生徒の割合は約 2.9%であり、そのうち約 75.7%が高等学校に進学することとしているとのデータが得られた。これらの高等学校に進学する発達障害等困難のあるとされた生徒の高等学校進学者全体に対する割合は約 2.2%」であった。平成 24 年の文部科学省の全国的な調査結果では、公立小・中学校の通常学級に在籍する発達障害の可能性のある児童生徒の割合は 6.5%、平成 25 年度の学校基本調査によると、平成 25 年 3 月の中学校卒業生数は、1,185,054 人であり、このうち 98.4%（通信制課程を含む）の生徒が高等学校に進学していることから、発達障害等により支援が必要となる生徒が数多く高等学校にも在籍していることは容易に推測でき、平成 19 年度からの取組を一層推し進めていかなばならないと考える。

ICT とは Information and Communication Technology の略語で、コンピュータやインターネットなどの情報コミュニケーション技術のことである。文部科学省の「ICT を活用した教育の推進に関する懇談会報告書（中間まとめ）」（2014）には、ICT を活用した教育の意義として「ICT 化が進む社会への対応力の育成」や「ICT の特長を生かすことによる教育の質の向上」を挙げている。特に教育の質の向上の観点からは「①課題解決に向けた主体的・協働的・探究的な学びを実現できる点、②個々の能力・特性に応じた学びを実現できる点、③地理的環境に左右されない教育の質を確保できる点」が述べられている。また、平成 26 年 6 月の「中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校教育部会の審議まとめ」には「多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応」が示され「ICT や様々なメディアを活用することにより、全日制・定時制課程における生徒の多様な質の高い学びを実現するために効果的な授業の在り方を検討することも必要」としている。本研究では ICT を活用した授業の振り返りを取り入れることで生徒の学力向上を目指した。

## 2 研究目的

本研究の目的は、学習に苦手さのある生徒の在籍するクラスの授業を MIM の 1<sup>st</sup> ステージにおいてユニバーサルデザイン（以下 UD）に基づき工夫し、その成果を検討することとした。1<sup>st</sup> ステージで実施することにより、どの生徒にとっても分かりやすい授業を目指せると考えたからである。また UD に基づく授業実践に際して、全体に対して行う指導は個別に行う指導より教師の

負担感が少なく、教職員が取り掛かりやすいのではないかと考えたからである。以上の実践により、UDに基づき工夫した授業展開によって学力が向上するのではないかと仮説を立てた。

### 3 研究内容

#### (1) 方法

##### ア 対象

##### (ア) 学校

対象校は全日制高等学校で全校生徒 100 人程度の小規模校である。多様なニーズのある生徒への特性に応じた適切な支援は現在の課題の一つであり、支援委員会をはじめ、校内研修などを通して日々検討している。また、近年、毎年度当初には教室の UD 化を図るため、教室環境整備のモデルを示したものと授業のポイントを示したプリント、新入生の出身中学校で聞き取った内容などを全教職員に示し、周知徹底している。

##### (イ) 生徒

対象生徒は対象校周辺に住む、様々な学習歴を持つ第 1 学年に在籍する生徒である。学習に苦手さのある生徒も在籍しており、以下の 2 点の困難さに対応すべく取り組んだ。

①学習内容の定着の不十分さは、高等学校入学時に実施された、中学校での学習内容を問う業者試験及び 1 学期の定期試験の分析から学習内容の定着に不十分さがあると考えた。

②注意集中の持続の短さは、授業観察をする中で、注意集中の持続が概ね 5～10 分程度であったことから問題点として挙げた。

##### (ウ) 教科

教科は現代社会で 2 単位、1 コマは基本的に 50 分である。公民科の科目に位置付けられ、学習指導要領解説（2009）によれば本来は学習したことからその内容への考察を深めることを目標と掲げている教科ではあるが、基本的な事項を理解してこそ思想的な作業が成り立つと考え、まずは用語とその説明が結び付くような学習方法を提案することとした。

##### イ 支援方法

本研究の目的は、学習に苦手さのある生徒に対する学力向上に向けた支援方法を、多層指導モデル（海津 2009）の 1<sup>st</sup> ステージで検討することとしているため、特定の生徒に特別な支援はしていない。そのため学習に苦手さのある生徒の学び方に配慮した支援方法を提案することによって、クラス全体の成績の底上げを狙うこととした。

今回取り組んだ UD 化の主なものには以下がある。

- ・パワーポイント（以後 PPT）を使った前時の復習（教材・教具の工夫）

毎時間の最初の 5～10 分程度を使い、前時の学習内容のポイントをまとめた PPT を作成し全員で確認する。

- ・単語カードの配付（活動内容の工夫）

授業内の課題と課題の間や休み時間等の隙間時間における自学や定期試験対策として現代社会の用語等をまとめた単語カードを配付した。

- ・指示の工夫（環境の工夫）

「本日のゴール」「教科書」などラミネートしたシートを黒板に貼り、生徒に見通しを持たせたり、今どこを学習しているのかを分かりやすくしたりした。配付プリントの小項目ごとに区切りを入れるなど学習内容を区切り分かりやすくした。

- ・教具の工夫（情報伝達の工夫）

「三権分立」の構造など常に用語として出てくるものは黒板に貼り出し、適宜活用した。

- ・その他の工夫（評価の工夫）

名前を呼んでの評価や、回収したプリントへコメント付きハンコを使用した。

UDに基づく授業を1<sup>st</sup>ステージで実施するにあたり、主となる取組を2つ挙げる。

(ア) PPTを使った前時の振り返り

実践理由として、授業者は言葉での説明が丁寧故に、言葉数が多くなる傾向があり、注意集中が続きにくい生徒たちにとってはその内容を記憶に留めることが難しいのではないかと考えたからである。復習内容を短時間に、ピンポイントで振り返るため、清水ら(2008)の取組にあった、ICT機器を使用することが有効であると考え提案した。

【手順】

スライドの問いは5～7問程度で作成。9～10月初旬まではスライドの1問1答は授業開始直後1回通して流すだけであったが、解答する生徒が固定化したり、前時から時間が空いた時など解答が出るまで時間がかかってしまったりするという課題があった。また問いの文章がやや長く、簡潔でないという反省を踏まえ、10月中旬からは同じ問題を2回流すことで内容がまだしっかりと頭に入っていなかった生徒もまず答えを確認できるようにし、併せてより簡潔な言葉で問いを出すようにした。また内容に関連する写真などを1回目のスライドの合間に入れることで、より前時の内容を思い出しやすくした。1回目のスライドで前時の学習内容を思い出し、覚える作業を行い、2回目はスライドの問いに答えるようにという指示をした。ただし、声に出さずに頭で解答を出してもよいこととした。なお9～11月のPPTの実施は10回である。(図3-1、写真3-1、写真3-2)

- a 前時の授業の核となった内容を1問1答形式のスライドとして作成。(筆者)
  - ・できるだけ簡潔な言葉で作成した。
  - ・色を使い分け、直接解答に関わる部分を赤、ヒントを青にした。
  - ・スライドの合間に、前回の内容を想起しやすくするため具体的な写真やイラストなどを投影した。(1回目のみ)
  - ・解答を一文字ずつ隠し、文字数によるヒント提示を行った。
- b 授業前にスクリーン代わりにする模造紙を黒板中央に貼り、パソコン、プロジェクタをセッティング。(筆者)
- c 授業開始後5～10分程度でパソコン(コードレスのマウス使用)を操作しながら授業者が前時の振り返りのPPTを操作し、内容を生徒と確認。(授業者)
  - ・1回目は問題に関する確認をする(覚える)、2回目は同じ問題で答えられるように指示する。
- d 終了後、前面の模造紙の片付け。(筆者)
- e 授業開始。(授業者)

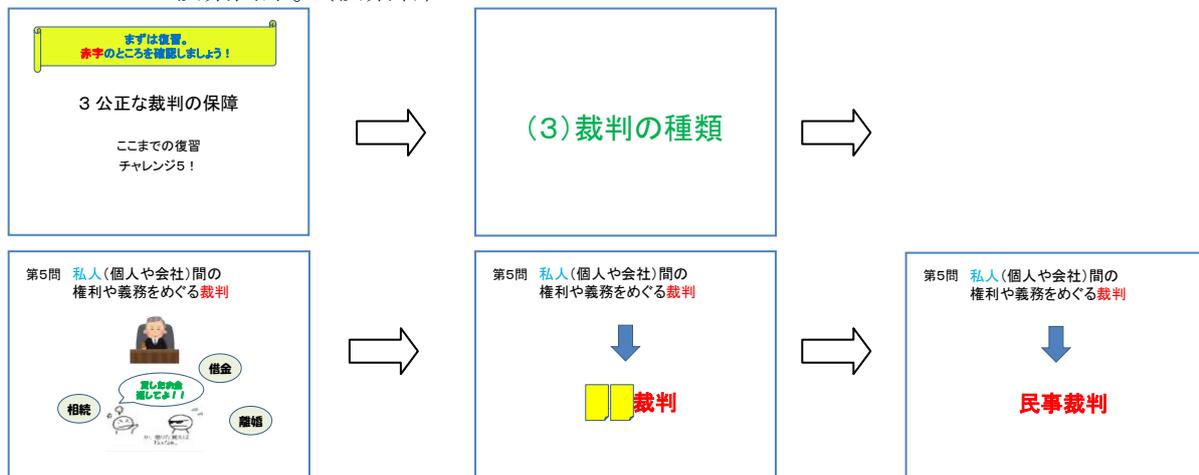


図3-1 PPT: 1回目の提示例



写真3-1 PPTを使用した振り返り①



写真3-1 PPTを使用した振り返り②

(イ) 単語カードの配付

実践理由として、現代社会という教科は用語が多く、その用語が定着していなければ以降の授業説明についていけなくなることが予想され、定期試験においても成績に反映されないと考えられ、まずは用語の定着が先決であると考えたからである。生徒の誤答例の特徴は「条約は？」と問われていることに対し、「〇〇条約」という解答ではなく、「△△法」など問いと答えが一致していないものが多かったため、問われている内容を赤字で、ヒントとなる言葉を青字で、関連あるイラストを合わせたカードを作成し、全員に配付した。

【手順】

単語カードを使用した学習については強制をせず、あくまで活用を推奨するに留めた。高校入試を経ていることから、独自の学習スタイルを確立している生徒がいることが想定されたためと、自学での活用になるためである。授業時間内での単語カードを使用した学習時間の確保はせず、隙間時間での自学や定期試験対策の位置付けとして、現代社会の用語等をまとめた単語カードを全員に配付した。配付時期は学習内容の区切りに応じ10枚程度を複数回設定し、2学期中間試験までに45枚、その後の期末試験までに54枚配付した。

カードは両面カラー印刷で、左隅をパンチで穴を開けリングを通した。リングは枚数が増えても対応可能なように直径2.5cmのものを使用した。表面には問題、裏面には解答を印刷した。2学期中間試験までのカードと、中間試験以降のカードの違いは2つある。1つ目は問いの出し方である。中間試験までのカードは問いに対する答えを複数求めるものがあつた(図3-2、3-3)が、中間試験以降は問いと答えができる限り一対一対応になるよう改善した。(図3-4、3-5) 2つ目は、前述の問いの出し方の変更に伴いカードの枚数が増えることが予測されたため、中間試験以前8×10.5cmであったものを中間試験以降は5×10.5cmに縮小したことである。

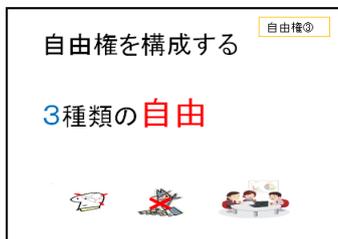


図3-2 2学期中間試験用カード例・表



図3-3 2学期中間試験用カード例・裏

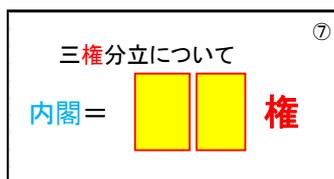


図3-4 2学期期末試験用カード例・表



図3-5 2学期期末試験用カード例・裏

## ウ アンケート

本研究で使用したアンケートは大別して2種類である。1つ目は「ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりチェックリスト」(2014)を使用した。これは東京都日野市の「通常学級での特別支援教育のスタンダード」(2010)を基に、高知県教育委員会作成の「すべての子どもが『分かる』『できる』授業づくりガイドブック」(2013)を参考にしながら高知大学で改編したアンケートである。生徒用と授業観察者用が10項目、教職員用が20項目からなる。2つ目はPPTと単語カードの使用感を問うもので、筆者が作成したものを使用した。いずれも巻末資料として付する。

## エ 手続き

表3-1 月ごとの実施内容

月	内容
4・5	管理職・養護教諭らから中学校での生徒に関する聞き取り内容の聴取と授業観察。対象クラスの担任や養護教諭からクラスの様子などを聴取。第1回目のアセス実施。
6	対象クラスの担任や養護教諭からクラスの状況等聴取および授業観察。 第1回アセス校内研修実施。 アセスの実施結果を全教職員対象に報告・周知。中間試験の結果分析。プレの授業研究。授業者と生徒には授業後に同様のアンケート(巻末資料)を実施・分析。
7	対象クラスの担任や養護教諭から、クラスの様子などを聴取。期末試験の結果分析。 1学期の中間試験・期末試験の平均点が35点以下の欠点を取っている生徒層への支援方法の検討。
8	補力補習の観察。「ユニバーサルデザインに基づく授業」に関する全教職員対象の校内研修を実施し、UDの視点の具体例を提案。
9	授業観察。PPTでの振り返りおよび単語カードの配付。
10	中間試験の結果分析、PPTおよび単語カード使用に関する筆者作成のアンケート(巻末資料)の実施及び分析。PPTでの振り返りおよび単語カードの配付。期末試験に向けた取組の改善案の考案。
11	PPTでの振り返りおよび単語カードの配付。黒板掲示物の提示(指示内容や学習関連事項の絵図)。ポストの授業研究。アンケートを実施。第2回目のアセス実施。
12	第2回アセス校内研修実施。全体の変容の説明と、ホーム主任の視点からの変容の読み取りの報告。期末試験の結果の分析、PPTおよび単語カードの使用に関する筆者作成のアンケートの実施及び分析、ポストのチェックリストの分析。

## オ 統計

Js-STAR2012(2.0.6j)を使用した。

### (2) 結果

#### ア 定期考査の成績

学力の定義として本研究では定期試験における現代社会の「素点」とし、1学期の中間試験と期末試験の素点平均点と、介入後の2学期中間試験と期末試験の素点平均点を比較検討した。なお学年全体の「現代社会」平均点は1学期52.2点、2学期56.6点であった。1学期と2学期の素点比較を図3-6に示す。t検定の結果、「1学期素点平均点」より「2学期素点平均点」の点数の方が有意に高かった( $t=2.7889$ 、 $df=6$ 、 $p=0.009$ )。平均の差の95%信頼区間推定は1.1966~7.7097である。

介入後に成績が向上した生徒は32人中23人、下降した生徒は8人、変化しなかった生徒は1人であった(表3-2)。成績は二極化しており、表からは、特に上位層に対して効果があ

り、下位層は上昇するグループと下降するグループが見られた。

次に、生徒 32 人を対象に 1 学期平均と、1 学期平均と 2 学期平均の差分をクラス数 5 に指定してユークリッド距離を用いたクラスタ分析（ウォード法）を行った。その結果、得られたデンドログラムにより大きく A～E までグルーピング出来た。併せて、図 3 - 7 にデンドログラムによって導き出されたグループに分けた表、図 3 - 8 に 1 学期の成績素点平均点と比較した 2 学期成績素点平均点との差分をデンドログラムによって導き出されたグループに分けた表を示す。

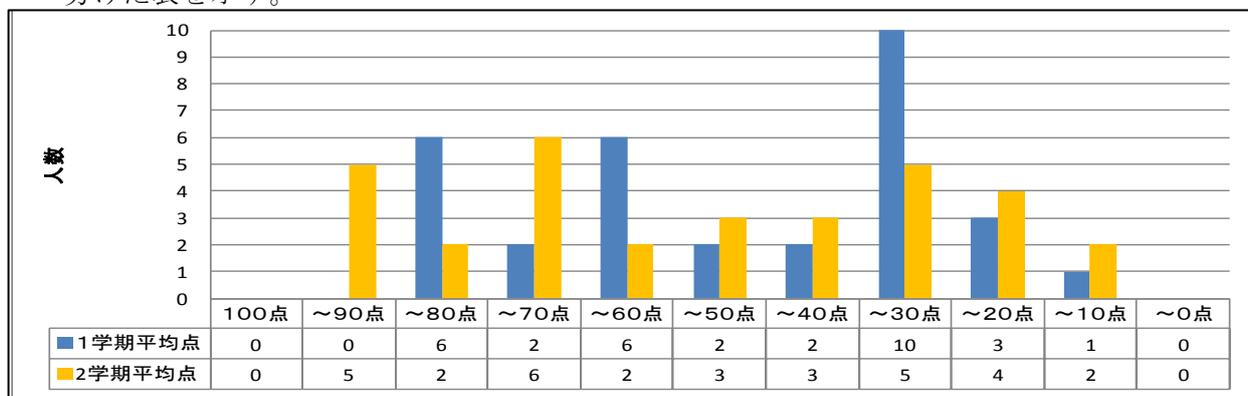


図 3 - 6 定期試験の「現代社会の素点」比較

表 3 - 2 1 学期平均と比較した 2 学期平均の変化数

1 学期平均の得点		2 学期平均を 1 学期平均と比較した場合の人数		
		上昇	下降	変化なし
50 点以下	16 人	8 人	7 人	1 人
51 点以上	16 人	15 人	1 人	0 人

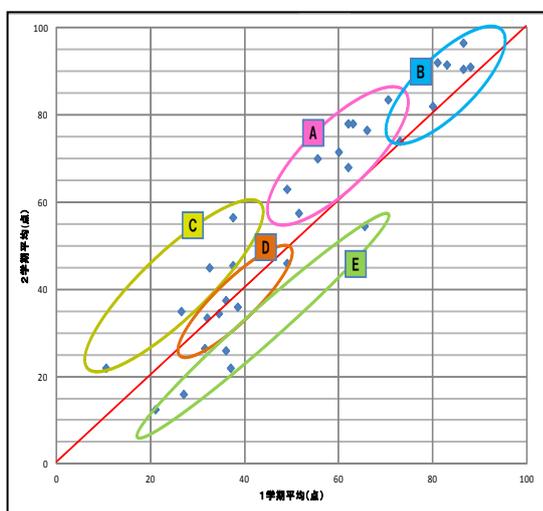


図 3 - 7 現代社会の素点分布  
(グルーピング)

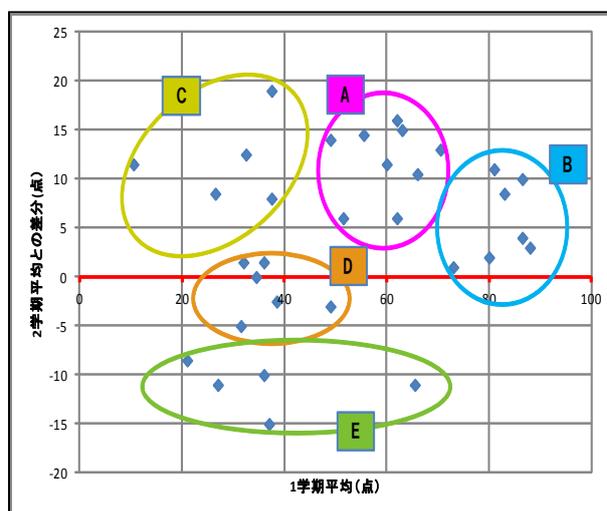


図 3 - 8 1 学期の成績素点平均点と 2 学期成績素点平均点との差分 (グルーピング)

#### イ アンケート

「ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりチェックリスト」を使用し、プレ（6 月）とポスト（11 月）でアンケートを比較したところ、生徒からは「DVD やパソコンなどの視聴覚機器を使って、学習が分かりやすくなる工夫をしてくれる」が有意に高く、同様に観察者、授業者ともに「ICT の活用など、授業内容が分かりやすくなる工夫」したことに対する肯定的評価が高かった。

PPT 活用に関する生徒の評価は「前時の学習のイメージを思い出しやすい」ことが評価され、単語カードは「小さいサイズ感から手軽であった」ことや「色分けが役に立った」との意見が出た。改善点は、PPT では「ゆっくりと考えたり覚え直したりするにはスピードが速かった」ことなど、また単語カードについては「紙が透ける」ことの指摘があった。

#### 4 まとめ

##### (1) ユニバーサルデザインを導入することの有用性

PPT を活用することで口頭による説明よりも短時間にピンポイントで前時を振り返ることができ、その後、本時の学習に入るために学習の内容がより理解しやすいことと、毎時間少しずつ内容を確認していくことでスモールステップによる用語の定着ができたことが効果的であったと考える。また単語カードは手軽に復習できる学習法として勉強の手法が増えた点で効果があったと考える。また、その他の工夫として行った、指示や教具の工夫などは、生徒が「今何を、どこを学習しているのか」を聞き逃しても、忘れても黒板を見れば一目でわかることで安心感が得られたり、何についての説明なのかを黒板に貼られた教具で即座に確認できることで授業についてこられる点で有効であったと考える。

##### (2) 今後の課題

今回の取組において、成績上位層にその効果が高いことが結果から分かる。一方で単語カードにおいては、自学としての位置付けではあるが、ロッカーに置きっ放しの生徒もいたことから、今後はその一層の魅力化、あるいは代替となる副教材の開発を生徒の実態に即しながらしていくことが必要となると考える。生徒が意欲的に学習に向かえる工夫や個別指導も今後の視野に入れつつ、全体へのさらなる授業のUD化が求められるのではないかと考える。

PPT や単語カードの作成及び授業内での実施時間の確保も今回課題の一つとして挙げられた。説明する言葉の精選や自身のスキルアップによって振り返りの時間を設けることが生徒の分かりやすさにつながり、ひいては理解が増し授業が円滑に進行するという相乗効果を生み出すと考える。複数の教科担任がいるならば、單元ごとに教材を作れば時間短縮になる。1度作成すれば次年度からは作成の手間は省ける。協力し合える教員仲間や、年次研修などでの取り組みによって教材の共有を学校の枠を超え進めることも時間を有効に使う術ではないだろうか。

学校の規模にも大きく左右されるところである教育施設の向上は必須である。手軽に出来てこそ「試してみよう」「やってみよう」と思う実践である。各教室への高輝度プロジェクタなどの設置があれば、準備の時間短縮もでき、より手軽にICTを活用した授業実践ができると考える。ソフト面、ハード面の両方を一層推し進めることでユニバーサルデザインに基づいた授業を一層加速させていくことが、生徒の「分かる」「できる」を多く生み出す一つの方策ではないだろうか。

#### 【引用・参考文献】

- 1 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、海津亜希子「通常の学級における学習につまずきのある子どもへの多層指導モデル（MIM）開発に関する研究」2009年 pp1 - 26
- 2 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、笹森洋樹「高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする児童生徒への指導・支援に関する研究 - 授業を中心とした指導・支援の在り方 - 」2014年 189p
- 3 清水康敬・山本朋弘・堀田龍也・小泉力一・横山隆光（2008）「ICT活用授業による学力向上に関する総合的分析評価」日本教育工学会論文誌 32(3) pp293 - 303
- 4 財団法人 コンピュータ教育開発センター（2012）「学力向上 ICT活用指導ハンドブック」19p

①ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりチェックリスト（生徒用）

授業アンケート（生徒用）		月 日				
年 組 氏名						
次のことについて、あてはまる番号に○をつけてください。						
（ ）科の授業についてのアンケート		そう思う	少し思う	どちらとも いえない	あまり 思わない	思わない
1	黒板のまわりをすっきりさせ、黒板に集中できるようにしてくれる。	5	4	3	2	1
2	1時間の授業の内容を示し、今、授業しているところ分かるように示してくれる。	5	4	3	2	1
3	生徒と目を合わせたりしながら分かりやすく、指示や説明をしてくれる。	5	4	3	2	1
4	板書や絵、写真、具体物などを使って、分かりやすく教えてくれる。	5	4	3	2	1
5	早く作業や学習が終わった生徒のために、次の課題を準備するなど、することを示してくれる。	5	4	3	2	1
6	いろいろな学習活動を取り入れ、友達と意見や考えを聞き合えるようにしてくれる。	5	4	3	2	1
7	身近なものから学習の題材を取り入れて、生徒がイメージしやすいよう工夫をしてくれる。	5	4	3	2	1
8	DVDやパソコンなどの視聴覚機器を使って、学習が分かりやすくなる工夫をしてくれる。	5	4	3	2	1
9	ノートやプリントにハンコやコメントなどを用いて学習に対する評価をつけてくれる。	5	4	3	2	1
10	個別にほめてくれたり、声をかけてくれたりする。	5	4	3	2	1

②ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりチェックリスト（授業観察者用）

ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりチェックリスト（ 月 日）

\*あてはまるところに○を記入してください。

授業観察者用

所属（ ） 小 ・ 中 ・ 高等 学校	かなりできている	少しできている	どちらともいえない	あまりできていない	全くできていない
記入者（ ）					
<b>ユニバーサルポイントⅠ 環境の工夫 ～落ち着いて遊びや学習に取り組める環境を整える～</b>					
1. 教室の前面には一切掲示物をしない。					
2. 1時間の授業の流れを視覚的に提示し、今、授業しているところが分かるように示している。					
<b>ユニバーサルポイントⅡ 情報伝達の工夫 ～みんなに伝わるように伝え方を工夫する～</b>					
3. アイコンタクトを取りながら具体的で明確な指示や説明をする。					
4. 板書や絵、写真、具体物等の視覚的支援を活用する。					
<b>ユニバーサルポイントⅢ 活動内容の工夫～一人一人が意欲的に取り組み、かかわり合えるようにする～</b>					
5. 次の課題を事前に準備するなど、理解が早い子どもへの対応や見通しを持たせる工夫をする。					
6. ペア学習、グループ学習を取り入れるなど、児童生徒同士が関わり合い、学び合い、教え合う場を設定する。					
<b>ユニバーサルポイントⅣ 教材・教具の工夫 ～みんなが興味・関心をもって分かり合えるようにする～</b>					
7. 身近なものから教材を見つけるなど、子どもがイメージしやすい工夫をする。					
8. ICTの活用など、学習内容が理解しやすくなる工夫をする。					
<b>ユニバーサルポイントⅤ 評価の工夫 ～子ども一人一人の力を出し切ることができるようにする～</b>					
9. ○印を入れる、シールを貼る、結果をグラフ化するなどの視覚的な評価をする。					
10. 行動の直後の評価や机間指導などで個別に賞賛や注意を行う。					

ご協力ありがとうございました。

③ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりチェックリスト（全教職員用）

ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりチェックリスト（ 月 日）

\*あてはまるところに○を記入してください。

全教職員用

所属（ ）小・中・ <b>高等</b> 学校	常に意識して いる	少し意識して いる	どちらともい えない	あまり意識して いない	全く意識して いない
<b>ユニバーサルポイントⅠ 環境の工夫 ～落ち着いて遊びや学習に取り組める環境を整える～</b>					
1. 教室の前面には一切掲示物をしない。					
2. 座席の位置は子どもの状態を考慮して教師が確認する。					
3. 1時間の授業の流れを視覚的に提示する。					
4. 授業の始めや途中で学習に必要なものが出されているか確認する。					
5. 学習姿勢や学習規律を具体的に指示する。					
<b>ユニバーサルポイントⅡ 情報伝達の工夫 ～みんなに伝わるように伝え方を工夫する～</b>					
6. アイコンタクトを取りながら具体的で明確な指示や説明をする。					
7. 板書や絵、写真、具体物等の視覚的支援を活用する。					
8. 文字の大きさや量を考慮する。					
9. 授業の流れが分かる板書にする。					
<b>ユニバーサルポイントⅢ 活動内容の工夫～一人一人が意欲的に取り組み、かかわり合えるようにする～</b>					
10. 授業の進め方にパターンを決めている。					
11. 「動」と「静」の活動を組み合わせるなど、授業にメリハリをつける。					
12. 次の課題を事前に準備するなど、理解が早い子どもへの対応や見通しを持たせる工夫をする。					
13. 具体物の操作や体験的な学習を取り入れるなど、多様な感覚を使う工夫をする。					
14. ペア学習、グループ学習を取り入れるなど、児童生徒同士が関わり合い、学び合い、教え合う場を設定する。					
<b>ユニバーサルポイントⅣ 教材・教具の工夫 ～みんなが興味・関心をもって分かり合えるようにする～</b>					
15. ワークシートなどを活用する。					
16. 身近なものから教材を見つけるなど子どもがイメージしやすい工夫をする。					
17. ICTの活用など学習内容が理解しやすくなる工夫をする。					
<b>ユニバーサルポイントⅤ 評価の工夫 ～子ども一人一人の力を出し切ることができるようにする～</b>					
18. 具体的に子どもに伝わる方法で褒める。					
19. ○印を入れる、シールを貼る、結果をグラフ化するなどの視覚的な評価をする。					
20. 行動の直後の評価や机間指導などで個別に賞賛や注意を行う。					

ご協力ありがとうございました。

④生徒への「現代社会」での取り組みに関するアンケート（2学期中間試験直後）

**「現代社会」での取り組みについてのアンケートのお願い**

高知大学 大学院 鳴崎京都

2学期より1年生の「現代社会」で、パソコンや単語帳を使った取り組みをしています。中間試験を終えた、今現在のみなさんの意見をお聞かせください。

1年( )番( )

**問1 授業の最初の、パソコンを使った「これまでの学習の復習」はいかがでしたか。**

- ① 毎回、映像を見て確認した                      ② 時々、映像を見て確認した  
③ ほとんど、映像は見えていない                ④ まったく、映像は見えていない

**問2 「現代社会」の単語帳はいかがでしたか。**

- ① かなり使った    ② どちらかと言うと使った  
③ どちらかと言うと使わなかった                ④ まったく使わなかった

**問3 パソコンを使った「これまでの学習の復習」はあなたにとって役に立ちましたか。**

- ① かなり役立った    ② どちらかと言うと役立った  
③ どちらかと言うと役立たなかった                ④ まったく役立たなかった

**問4 「現代社会」の時間に配布した単語帳はあなたにとって役に立ちましたか。**

- ① かなり役立った    ② どちらかと言うと役立った  
③ どちらかと言うと役立たなかった                ④ まったく役立たなかった

**問5 「現代社会」の中間テストの手ごたえはいかがでしたか。**

- ① かなりできた    ② どちらかと言うとできた  
③ どちらかと言うとできなかった                ④ まったくできなかった

**問6 みなさんの勉強に、より役立たせるためのアイデアやアドバイスがあれば教えてください。**

問2で「単語帳を使用しなかった」と答えた人は、その理由を教えてください。

